

園芸用ハウスの管理について

これから、厳冬期となります。設備を点検し、雪害を想定した対策と準備をしましょう。

1 雪害対策

近年では、平成26年2月に62cm、平成28年1月に15cmの積雪があり、農用ハウス等が損壊する被害が出ています。過去の積雪に耐えたハウスであっても、ハウスの部材が劣化し、耐雪性が低下している可能性があります。いま一度、ハウスを点検し、補修や補強を行います。

(1) 事前対策

- ボルト・ナットや金具のクサビ、ジョイント等の緩みや脱落がないか点検しましょう。
- アーチパイプの脚部が腐食している場合は、補強用パイプと固定し、補強しましょう。(図1)
- 筋交いを設置し、間口・奥行方向の

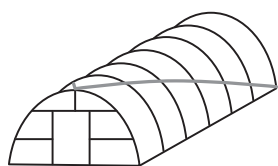


図2 筋交いはアーチパイプに沿わせる。



図1 アーチパイプの脚部を補強

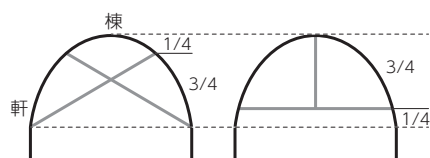


図3 屋根部の補強例

左：X型補強：軒から棟の高さの4分の3の位置と、軒を結ぶように設置する。
右：タイバー：軒から棟の高さの4分の1の位置に設置する。

強度を高めましょう。(図2)

○積雪時に、ハウスの肩の広がりを抑えるため、タイバー(パイプ)やワイヤーを屋根根部に設置しましょう。

(図3)

○被覆の外側にある、ネットや寒冷紗は取り外しましょう。

○融雪水がハウス内に入らないように、排水溝を設置しましょう。

○使用していないハウスでこれらの対策が難しい場合は、被覆資材を外し、骨組みだけの状態にしておきましょう。

(2) 降雪時の対策

○加温設備がある場合は、カーテンを開けて、暖房機の熱による融雪を図りましょう。

○雪が積もり始めたなら、雪下ろしを行います。ただし、危険を伴うため、ヘルメットや滑りにくい靴を着用し、必ず複数人で作業をしましょう。

☆なお、屋根に積雪があるときは、倒壊の恐れがあるため、ハウス内に入らないでください。

2 暖房機の点検

暖房機の故障を防ぎ、燃費の向上を

図るため、暖房機の点検と調整を実施しましょう。

＜点検項目＞

○温度センサーは、温風が直接当たらない位置に設置し、高さは作物の生長点となるように調整します。

○ノズルヒーターは故障しやすい箇所です。午前中にエラーコードの表示を確認し、異常が見られたら、業者に修理を依頼しましょう。

○エアシャッターの開度を調節しましょう。空気が過剰だと白煙、不足していると黒煙が煙突から出てきます。煙が出ない状態にしましょう。

○バーナーノズルは定期的に交換しましょう。A重油は1000時間、灯油は2000時間が交換の目安です。

○年に1回シーズン終了時には、缶体を掃除しましょう。すすが残っていると、腐食する恐れがあります。

大里農林振興センター農業支援部